

2-7.2_2

2) 見学旅行

1 材料・応用化学科(旧物質生命化学科)

卒業研究に着手する前の工学系3年生が、実際の化学系、バイオ系工場を見学することにより、化学と工業製品との関係、企業の研究環境を実際に目で見て学び、見識を広げることを目的として、学部3年生による工場見学を例年行っている。令和5年度は、9月26日に学部からのインターンシップ経費の支援を得て、化学メーカーである三井化学、製薬メーカーであるKMバイオロジクス株式会社、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリングの工場見学を日帰りで実施した。参加者は46名であった。

2 材料・応用化学科(旧マテリアル工学科)

物質材料工学教育プログラム(旧マテリアル工学科)では例年、学部3年生を対象として、学生個人がこれまでに修得した専門教育をさらに意義深いものにするために、材料に関連する企業工場見学を実施している。最近3年間は新型コロナウイルスが蔓延していたため、バーチャル工場見学という形式で実施することを余儀なくされていたが、本年度は工場への直接訪問がようやく解禁となった。コロナ前は1年生の時に日帰りで熊本周辺を見学し、3年生の時は1泊2日で関西圏まで足を伸ばすのが慣例であったが、この世代の学生達はコロナで1年生のときの工場見学を経験していないため、今回は見学先を北九州まで含めた九州圏内とし、日帰り2日というスケジュールで実施した。学生達の反応は概ね良好で、特に鉄工所のスケールの大きさに圧倒されて、金属工学を誇りに思うようになったと興奮して語る学生達が多いことが印象的であった。

日程：8月29日(火)～8月30日(水)

対象学年及び参加学生数：学部3年生48名

引率教職員：4名(連川貞弘、松田光弘、松川義孝、楓 杏子)

日程及び見学先：

8月29日(火) 午後 日本タングステン 基山工場

午後 日本製鉄 九州製作所

8月30日(水) 午前 ジャパンマリンユナイテッド 有明事務所

午後 ソニーセミコンダクタマニュファクチュアリング 菊陽町

3 機械数理工学科(機械工学教育プログラム、機械システム教育プログラム、数理工学教育プログラム)

入学後、間もない1年生学生どうしの親睦を深めるため、機械数理工学科での今後の学び方の指針をえるため、また機械数理とSDGsの関わりについて学ぶ機会として、5月13日(土)に阿蘇周辺地域への研修旅行を実施した。研修場所は阿蘇火山博物館および震災遺構「旧東海大学阿蘇キャンパス」であった。

4 土木建築学科(旧社会環境工学科)

4-1 土木建築学科(土木工学教育プログラム・地域デザイン教育プログラム)(3年生)

令和2年度からのコロナ禍の影響で令和3年までのあいだ、1年次に実施していた合宿研修および2年次に実施していた日帰り研修旅行は中止せざるを得なかった。また、平成4月からの工学部改組に伴って、1年次には土木系・建築系のプログラム配属がなされていない状況を踏まえ、従来実施していた2年次の日帰り研修旅行も兼ねて、土木系プログラムでは2年次(プログラム配属後)に合宿研修を実施することとした。詳細は「合宿研修」の項目を参照されたい。

5 土木建築学科(旧建築学科)

5月に熊本のすぐれた建築を見学する日帰り研修を実施した(合宿研修の項に記載)。

6 情報電気工学科(旧情報電気電子工学科)

例年、企業訪問・見学を実施しているが、今年度は熊本地区において第一弾として9/19にソニーセミコンダクタマニュファクチャリング、A社、本田技研工業株式会社、第二弾として9/16に九州電力 大平発電所(揚水式水力発電)の企業見学を実施した。9/19は8時30分に百周年記念館前集合とし、学生33名と引率教職員3名が参加する形で午前にA社、午後にソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社と本田技研工業株式会社 熊本製作所を見学し、18時に熊本大学南キャンパスに戻った。各企業では会社案内、開発製品のデモ、熊本大学OBとの懇談を実施頂いた。9/26は8時30分に百周年記念館前集合とし、学生14名と引率教員2名が参加する形で九州電力 大平発電所を見学し、18時に熊本大学南キャンパスに戻った。会社案内の他、地下発電所および油谷ダムの見学を実施頂いた。また、参加学生に対して実施した事後アンケートでは、大多数の学生が「非常に役に立つ」と回答し、率直な感想やコメントを得ることが出来た。

以上のように、学生にとっても大きな刺激になったようである。技術者の声を聴くと同時に、進路選択のアドバイス等を頂く貴重な機会となり、今後の学習意欲の向上と進路設計、キャリアパス構築の大きな助けになるものと期待される。

7 機械数理工学科(旧数理工学科)

機械系との共同実施のため機械系の情報を参照されたい。